慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	米国の通貨収縮論
Sub Title	
Author	堀江, 帰一
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1921
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.15, No.7 (1921. 7) ,p.1051(139)- 1053(141)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19210701-0139

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

Marlborough の出身者が Oxford では Exter College に入學するのが順序である。Marlborough の教師の中の數名は Exter の出身者であるから。Morris は學校では成績のいい方ではなかつた。彼は學問よりも蠶の玉子と古代の教會のことについてより詳しかつた。それに Wilkinson 博士の管理の下にあつたときの學校の狀態は滅茶々々であつて、千八百五十一年の十一月には遂に學校騷動が起るに至つた。そこで彼はその年のクリスマス限り退學することになり、家庭教師について學ぶこととなつた。家庭教師としては牧師 F. B. Guy 氏が選ばれた。彼は學識人格共に高く、その Morris に及ぼした影響は大なるものがあつた。彼は Walthamstow の Forest School の助教員で、Morris とは約一年程一處にゐた。彼は典型的な高教派の僧侶で、同情心に富み、高尚な趣味を持ち、繪畫と建築に對しては深い造詣があつた。この人の指導の下に Morris は古典の智識を可成得たのである。

當時の學友 W. H. Bliss 氏は Morris のことを記してゐる。彼等は日々森に行つた。Morris は他の少年がロンドンで一日の遊樂に耽りに行くときに、獨りでこの森の中を散策した。Wellington 侯の葬儀の日も、多くの少年がその盛儀を見やうとしてロンドンへ出掛けて行つたのに拘らず、彼一人 Waltham Abbey に馬を走らせたのであつた。

Morris は千八百五十二年の六月 Oxford に行つて、Exter の入學試驗に通過した。それは夏休暇後直ちに入學する豫定であつたからである。けれども學校が滿員の狀態にあつたので、翌年の春（The Lent term）まで延期しなければならなかつた。彼は Guy 氏のところへ歸つて來て、尙ほ六ヶ月勉學した。夏休暇には彼と共に Devonshire と Alphington へ行き、歸つてからは Walthamstow の家に暮した。Exter の試驗場で彼の隣席へ座つた少年は Birmingham King Edward's Grammer School から、同じ目的で來た少年で、Morris の生涯を通じての親友となつた Edward Burne-Jones であつた。（Mackail, Life, Vol. I. pp. 12-28）

新刊紹介

米國の通貨收縮論

E. W. Kemmerer-High Prices and Deflation. pp.XII. 84.

プリンストン大學の教授ケムメラー氏は米國現代の經濟學者中、通貨に關する知識の豐富である點に於て、第一人者を以つて、許すに値する。歐洲戰爭中、氏は通貨膨脹を題する論文を「アメリカン、エコノミツク、レヴヰユー」に掲げて、此問題に就て、氏の理解の如何に公正であるかを明にした。本書は通貨膨脹、物價騰貴幷に通貨收縮の三章より成る。前二章に於ては、今日の如く米國に於て物價に騰貴を來し、生活費の昂騰を招いた原因を以つて、一に通貨の膨脹に歸した。而して氏が通貨を以つて所謂預金通貨をも含むものと解釋して居ることは、氏の曩に公にした論文を一讀した者の認める所で

あるが、本書に於ても、更に此意義を明にし、通貨膨脹の原因を以つて、歐洲から巨額なる金の輸入し來つたことの外に、(一)銀行が貸出幷に預金を膨脹することは愛國的義務であると考へ、(二)實業家幷に公衆が事業を擴張し、且つ自由公債を買入れることを同じく愛國的義務であると信じ、一方に(三)政府が戰時財政の必要に應じる爲めに、聯邦準備金銀行をして殊更に割引歩合を低廉に維持させたことに歸したのは、正當の解釋と認めなければならぬ。

通貨膨脹の經濟社會に及ぼす影響の善惡兩方面に就ては、ジェヴオンス、ケヤンス其他の人々が千八百五十年前後に於ける金產額增加時代に研究した當時から大體に於て、型が定まつて居る。ケ氏も亦此型に從つて、第二章に於て通貨膨脹の影響を論じて居る。即ち氏の議論を要約すれば「單純なる物價の騰貴は善でもなければ、惡でもない、唯急速に物價平準の騰貴することは、經濟上に社會上に多くの患害を生ずる所以と爲る。即ち契約上の關係を攪亂し、全體に於て物價は騰貴するにしても、卸賣相場と小賣相場とは騰貴に遲速あり、賃銀と物價とは急速に調節されず、殊に或る種の料金は政府監督の下に在つて、調節の困難なるものがあり、賃銀の上進亦不平等である爲めに、結局社會に不平を激成せざるを得ない」と云ふ諸點に歸着する。而して近年の通貨膨脹は戰時財政の關係から生じたものであるとすれば、此事は即ち戰爭に伴う經濟的負擔を不公平にしたものであると論じたのは、是れまでの學者の着目しなかつた點である。

然らば通貨收縮問題は如何に之を取扱ふ可きか。是れは第三章の問題であつて、一方にケ氏は通貨膨脹が平和時代に於ける永久の政策とす可からざることを認めて居るが、他の一方に於ては通貨收縮の弊害（債務者に對する不公正、事業の沈衰、失業、賃銀低落、勞働組合に對する壓迫等）を述べて居る。然らば此問題は結局如何にす可きものであるかと云へば、ケ氏は金の供給は堅實なる金貨本位制の下に、現在の如き高き物價平準を維持して行くのに、不足であるから、到底通貨を收縮しなければならぬと云ふことで、議論を結んで居る。是れは誠に正當の議論であつて、間然する所なきものであるが、一方に歐洲諸國が今日の如く金貨本位制其もの、本旨を放擲して居るとしたならば、以上の論點から通貨收縮の行はれることは望まれない。金產出額は近き將來に於て、戰前の狀態に恢復することは望まれないであらう。然も諸國が割合に寡少なる金に對して、割合に大なる通貨なり、信用なりを膨脹させて、平然として居つたならば、通貨の收縮は百年河清を待つに類するのである。最後にケンメラー氏は通貨收縮の方法として、(一)聯邦準備金銀行の割引歩合引上(二)軍事公債の高利借換、(三)聯邦準備金銀行の差別的貸出（投機市場や、奢侈品の製造に資金を融通して居る銀行、法外なる融通を請求し來る銀行に高率の再割引歩合を課する義）(四)政府の公債發行制限等が主張されて居る。

本書は僅に八十數頁の小冊子に過ぎないが、其內容は頗る充實して居る。私の近頃讀了した書物の內で、全編の大部分に通じて、贊意を表し、尊敬を拂つたのは、本書位のものであつて、特に其內容を擧げ、通貨問題に就て、知見の蒙昧である我國に紹介する次第である。

（堀江歸一）

福田德三著 改訂增補 國民經濟講話

大鐙閣發行
定價金拾貳圓

福田博士の國民經濟講話が近時我經濟學界に於ける最大の產物なること固より言を俟たず。本書は博士の全經濟學體系の前半部をなすものにして、總論及び生產論に屬する六篇四十章一千四百十二頁（五八八字詰）を收む。若しこれに、續いて刊行せらるべき流通經濟講話の五篇（流通の原理、貨幣論、價格論、所得論、結論）を加ふるときは、丁數は恐らく倍加すべく、實に經濟